



認知症の人にも、最期の地と時期を決められる

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（91）】娘さんの到着を待って逝った母

公開日：2020/01/13 (ソサエティ)

里村 佳子 (社会福祉法人呉ハレルヤ会呉
ベタニアホーム理事長)

「このまま入院して治療をするか、それとも私と一緒に家に帰る?」と、島末子さん(仮名96歳)の娘さんは、お母さんに聞いたそうです。

「分からない」と、お母さんは答えました。

そこで、再度問いかけました。

「治療をしたとしても完全に治らないそうよ。心臓の調子が良くないから」

すると、お母さんは「一緒に帰る」と、答えたそうです。そして、「忙しいのにありがとう」と、娘さんを気遣いました。

娘さんはクリスチャンでしたから、いつものようにお母さんと一緒にお祈りをしました。

「天のお父さま。私の母は体調をこわしています。神さまが共にいて痛みや不安を取り除いてください。母は自分の罪のためイエスさまが十字架にかかれたことを信じて救われました。お母さんの罪は許されて天国に行けることを信じて感謝します」。

お母さんも「アーメン」と言って、一緒に祈りを捧げました。お母さんは仏教徒



でしたが、85歳の時に娘さんの勧めもあって病床上でキリスト教の洗礼を受けたのです。

「じゃあ、また明日来るからね」と、娘さんはお母さんに声をかけました。お母さんはベッドから頭を持ち上げ、大きく目を見開いてじっと娘さんを見つめました。

翌日の午前9時、娘さんが病院に行く準備をしていたら、「体調が思わしくないの念のため来てください」と、病院から連絡が入りました。

あわてて病院に駆けつけると、すでにお母さんの意識はありませんでした。娘さんは何度も何度もお母さんの耳もとで声をかけてみましたが、反応はありません。

そこで、娘さんはお母さんの手を握りお祈りをして讃美歌を歌いました。

最期まで耳は聞こえているはずですから、お母さんに届くようにと。

ところが、讃美歌が歌い終わるや否や眠ったように逝ったのです。

1晩だけ入院をして、あっという間に帰天したのです。

お母さんは入院の数日前まで、好きなデザートを食べていつも通り過ごしていたのですが、急な発熱と嘔吐で検査入院となりました。

検査の結果、娘さんは医師から心不全を起こしていて、明日をも知れぬ病状であると告げられました。

「高齢なので治療に耐えられるかどうか。希望すれば検査しますが」と、医師は言葉を濁したそうです。

娘さんは「母が望めば自宅に連れて帰り、看取りたいと思うのですが」と、迷わず答えました。

これまでお母さんは何度も入院をしましたが、認知症なので点滴を抜こうとし、

手足を拘束されることが度々ありました。

娘さんは拘束の必要性を分かっていたのですが、その姿を見る度に身を引き裂かれるような思いをしていました。

それで、少し寿命が長らえたとしても完治するわけでも治療を、96歳のお母さんにさせることは忍び難かったのです。

ですが、医師に「お母さんに治療をするかどうか聞いてみます」と、伝えました。

お母さんは脳血管性認知症で理解力や判断力は低下していますが、会話ができないわけではありません。

だから、お母さんに治療をするかどうか、最期をどこで迎えるかを問ってみようと思ったのです。

たとえ、問いの意味がはっきりと理解できなくても、人生を決定するのは本人だからです。すると、お母さんは娘さんと家に帰ることを選択しました。

ところが、葬儀を終えて時が経つにつれ、娘さんはお母さんに「治療をしても完治しない」と伝えたことで、生きる意欲を失ってしまったのではないかと、心が痛むようになったのです。

そんなある日、娘さんはお母さんが亡くなった日のことを思い出していました。

9時15分に娘さんは病院に到着し、その13分後にお母さんは召されました。

娘さんは気付いたのです。お母さんは娘さんを待っていたことを。娘さんがお母さんの最期に立ち会えなくて、後悔することがないようにと。

だから、娘さんは自分を責めることは止めました。

お母さんは家に帰れなかったにしても、自分で最期を決定し人生を全うしたので

すから。

ちなみに、娘さんとは私のことです。

(注)事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子のバックナンバー](#)
- > [ソレイマニの死はやはり影響大](#)
- > [新年はミステリーの連発を堪能](#)
- > [経済誌記者時代にも、仏教が指針に](#)
- > [待ったなしの気候変動対策に、背を向ける有力政治家](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子(社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム理事長)

法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設運営。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。2019年ニュースソクラのコラムを加筆・修正して「尊厳ある介護」を岩波書店より出版。

いいね！ 0

シェア 0

LINEで送る

[この記事編集](#)

ソクラとは

FAQ

編集長プロフィール

利用規約

利用案内

プライバシーポリシー

著作権について

特定商取引法に基づく表示

メーカーソクラ

お問い合わせ

お知らせ一覧

コラムニストプロフィール

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved